

**テーマ：貿易統計（2014年11月）**
**発表日：2014年12月17日（水）**

～実質輸出は堅調な推移～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝

TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量							
		原数値		季調値		輸出金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU		アジア	
						前年比	前年比	前年比	前年比										
13	11月	▲13011	▲13960	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲7.0	1.8						
	12月	▲13072	▲11905	15.3	24.8	2.5	▲4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8						
14	1月	▲27950	▲17265	9.5	25.1	▲0.2	6.3	5.5	▲2.0	8.0	15.3	9.2	10.9						
	2月	▲8047	▲11233	9.8	9.0	5.4	▲1.0	8.2	5.0	▲0.5	16.0	8.6	▲2.9						
	3月	▲14507	▲16051	1.8	18.2	▲2.5	1.5	▲0.3	▲4.9	11.6	13.3	12.8	11.3						
	4月	▲8149	▲8630	5.1	3.4	2.0	▲1.5	4.8	▲1.3	▲1.3	6.2	0.7	1.1						
	5月	▲9108	▲8615	▲2.7	▲3.5	▲3.4	▲1.9	6.4	▲4.9	▲4.0	1.0	▲0.7	▲2.3						
	6月	▲8285	▲10545	▲1.9	8.5	▲1.6	▲1.8	4.5	▲5.4	7.2	6.4	7.9	8.2						
	7月	▲9649	▲10118	3.9	2.4	1.0	▲1.0	3.7	0.7	▲0.3	▲0.7	▲2.8	▲2.7						
	8月	▲9527	▲9031	▲1.3	▲1.4	▲2.9	▲6.2	1.0	▲3.4	▲4.6	▲2.3	▲3.3	▲5.0						
	9月	▲9641	▲10863	6.9	6.3	2.8	▲1.1	▲4.9	4.9	3.0	0.1	4.0	3.1						
	10月	▲7369	▲9851	9.6	3.1	4.8	▲0.4	3.2	4.5	▲1.7	7.9	3.7	▲3.8						
	11月	▲8919	▲9250	4.9	▲1.7	▲1.6	▲3.7	▲4.4	▲1.3	▲6.9	▲9.1	▲0.6	▲6.4						

(出所)財務省「貿易統計」

## ○貿易赤字は緩やかに改善

11月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は8,919億円の赤字（コンセンサス：▲9,920億円、レンジ：▲11,700～▲7,859億円）となった。輸出金額が前年比+4.9%（コンセンサス：+7.0%、レンジ：+0.8%～+11.0%）と3ヶ月連続の増加となる中、輸入金額は▲1.7%（コンセンサス：+1.7%、レンジ：▲5.7%～+4.3%）と減少した。

季節調整値でも、輸出金額が前月比+0.3%と増加、輸入金額は同▲0.5%と減少した。為替レートは円安傾向での推移が続いており、輸出金額を押し上げた。一方、輸入金額は、輸出と同様に円安による押し上げがあったものの、数量減や原油安の影響が上回り、減少した。この結果、季節調整値でみた貿易赤字幅は、2ヶ月連続で縮小と改善傾向に向かい始めた。

## ○実質輸出は堅調な推移

為替などの物価変動の影響を除いた実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比▲2.2%（10月：同+3.6%）と減少した。11月の減少は前月の大幅上昇の反動の面があり、減少幅が前月の増加幅より小さなものに留まっていることに鑑みれば、良好な結果だ。

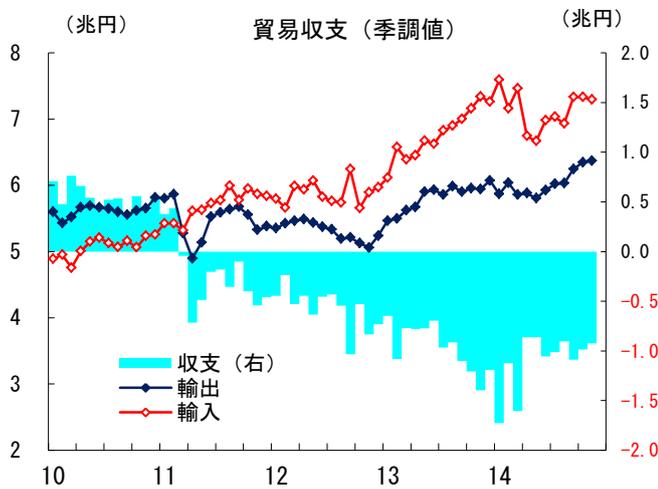
実質輸出を地域別に見ると、米国向けとアジア向けが横ばい、EU向けが前月比▲6.2%と減少した。米国向け、アジア向けは、ともに前月大幅増加しており反動減があるものかとみていたが、横ばいに留まった。米国向けは、輸送用機械が減少となったものの、5ヶ月連続の増加と好調な一般機械の増加が相殺した。アジア向けも輸送用機械が減少したものの、一般機械が増加、全体では横ばいとなった。好調を維持した米国向け、アジア向けに対して気がかりなのが、EU向けだ。EU向けは9月（同▲5.2%）、10月、（同+4.0%）、11月（▲6.2%）と、振れを伴いつつも減少傾向での推移となっている。EU向けの足を引っ張っているのは、輸送用機械であり、2014年7月をピークに4ヶ月連続の減少となった。総じてみれば、良好な結果であったものの、弱い動きが続いているEU向けの動向は注意が必要だ。

## ○先行きも輸出は緩やかに改善する見込み

以上のように、11月貿易統計の輸出は堅調な推移となった。なお、実質輸出の10-11月平均比は前期比+3.9%であり、10-12月期の実質輸出は2四半期連続の前期比プラスとなる公算が大きい。これまでもたっていた輸出であるが、持ち直し基調が鮮明になってきた。

先行きについても、海外経済の回復を背景に緩やかな増加基調で推移していくものと見ている。海外経済を見ると、欧州経済やアジア経済は足元で足踏み感があるものの、米国経済は堅調に推移しており、米国経済がけん引役となることで、世界経済は緩やかに持ち直していくだろう。輸入は、内需の回復を背景に徐々に増加傾向に転じていくと見込んでいるが、内需の回復が鈍いことに鑑みると、当面増加ペースは緩やかなものとなりそうだ。

なお、11月の経常収支（季節調整値）は黒字を予想している。先行きの経常収支を展望すると、貿易収支は、輸出が増加基調で推移する中、原油価格の下落を背景に輸入金額が抑制されることから、赤字幅は縮小傾向で推移するものとみている。また、第一次所得収支は、円安による受取額の押し上げなどを背景に高水準の黒字で推移することが見込まれる。総じてみれば、経常収支は黒字基調で推移するだろう。ただし、足元では金融市場に不透明感が生じており、動向には注意が必要だ。

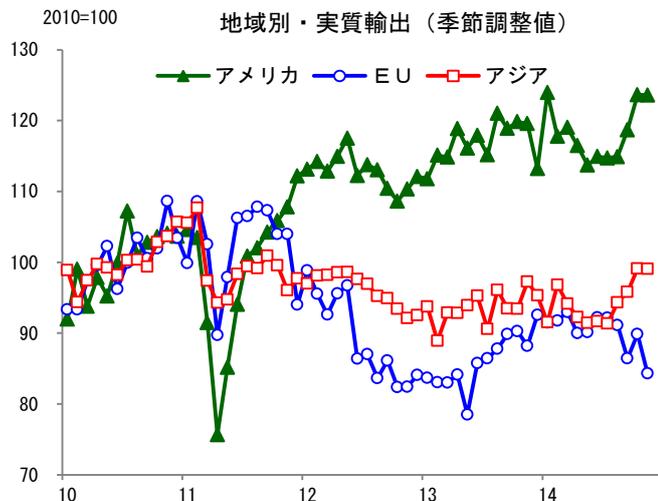


（出所）財務省「貿易統計」



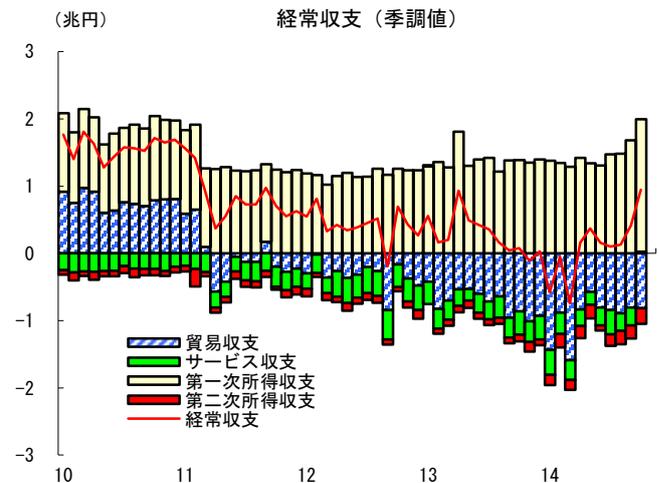
（出所）財務省「貿易統計」

（注）横線は7-9月期平均値、10-11月期平均値  
※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省「貿易統計」

※実質化および季節調整は第一生命経済研究所



（出所）財務省「国際収支統計」

